放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:　2024 年 3 月 18 日　　事業所名　unico大分

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	●		物品の整理を行い、スペースを確保している。	現在の利用者数では問題無いが、今後利用者数が増えた場合に工夫が必要となる。
	2	職員の配置数は適切である	●			児童指導員を増員
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		●	整理整頓 段差の設置	収納スペースが少なく、こまめに整理整頓を行っている。トイレ入口に大きな段差がある為、小さい段差を用意している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	●		スタッフ間での情報共有	毎朝のミーティング、月に1回の全体ミーティングを行い情報共有を行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	●			定期的に保護者の意見を取り入れながら業務改善に繋げている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	●			令和5年度分から実施予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		●		第三者ではないが福岡本部からの内部監査を年二回実施し、業務改善を行っている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	●			内部研修は月一回以上実施できているが、外部研修は少ない為、今後増やしていきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	●			定期的に実施している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	●			アセスメントツールあるも使いにくい部分ある為、今後改善していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	●			定期的に実施している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	●		毎日違う活動を行っている。	保護者からの意見を取り入れ、活動に反映している。

	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	●			長期休暇時の課題設定は不十分であり、今後把握に努めていきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	●			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	●			朝のミーティングで確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	●			翌日の朝のミーティングでスタッフ間で共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	●		フォーマット使用	より内容の濃い記録を残していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	●			半年毎にモニタリングを行いニーズの再確認を行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	●			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	●		教室長、児童発達支援管理責任者参加	参加者が後日スタッフと情報共有を行っている。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている		●		学校との情報共有は行えていない。行事予定等の確認は保護者と行っており、漏れがみられる事がある。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		●		該当なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	●			担当者会議やモニタリング時に共有しているが、保育所や幼稚園等との情報共有は不十分。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		●		該当なし

	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		●		専門機関との連携がとれておらず、今後は専門機関との連携をとれる環境作りを行いたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		●		外出レクリエーション時や公園で他児童との交流はあるが、児童クラブや児童館との交流は無い。今後検討していく必要がある。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		●		今後検討していく必要がある。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	●			連絡帳・送迎時・モニタリングの際に適宜行えている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている		●		送迎時などに助言・支援することがあるが、施設としては行っていない。スタッフの経験により差異が生じている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	●			問い合わせ・見学・体験・契約時に適宜行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	●			送迎時を中心に適宜実施している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		●		今後検討していく必要がある。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	●			迅速な情報共有、報告の実施。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	●			会報などはないが毎月ワークショップ表を作成し、
	35	個人情報に十分注意している	●			外部、第三者に伝えない事を徹底している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	●			ゆっくり話したり、ジェスチャーなど視覚的な部分から伝えるように工夫している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		●		今後検討していく必要がある。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	●		マニュアル作成	職員は周知しているが、保護者への周知が出来てているか不明
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	●		防災グッズ 訓練実施	年二回避難訓練を実施。実施日に利用していない児童もいる為、全員参加できるように配慮していく必要がある。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	●		本部研修 動画研修	研修を行い意識付けを行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	●			身体拘束の範囲が組織的決定が曖昧な部分がある為、その部分をより明確にし共有していく必要がある。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	●			昼食は基本的にはお弁当持参。 おやつに関しては保護者から事前にアレルギーなどを確認し、提供をしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	●		ヒヤリハット報告書作成	報告書を作成し、職員間で回覧や対策を考えている。